

二七日

ふたなぬか

世に、お母さんの胸に抱かれた赤ちゃんの笑顔はどうつくしいものはないといわれます。まったく無心に、お母さんにまかせきった世界だからです。突飛な空想ですが、もしかりに、赤ちゃんが言葉をあやつることができて、「お母さん、しっかり育児をお願いしますよ」と言ったらどうでしょう。お母さんは、おどろいて腰を抜かすでしょうし、その笑顔のうつくしさは、たちまち色あせたものとなるはずです。赤ちゃんは無心だから満ちたりた笑顔を見せるのであり、それは、お母さんのほうから、どうか丈夫に育ってほしいと願わずにはおれない営みのなかにつつまれたうつくしさでもあるのです。

「本願」と

は、み仏の願
いです。阿弥

本願名号

陀如来のほうから、我が国（浄土）に生まれんと欲

するものすべてを救わずにはおれないという誓いを立てられ、その誓願は成就されました。私たちは、こちらからお願いするまえに、み仏から願われているのです。願われつづけてきたのです。

その尊いお徳のすべてが「南無阿弥陀仏」のお名号にこめられています。ですから、私たちがみ仏のお誓いを信じて「南無阿弥陀仏」とおとなえしたそのお念仏は、私がおとなえようとしてとなえたお念仏ではなく、み仏の、お呼び声とただかされるのです。

